

2017 年度政治経済学Ⅰ 定期試験 (2017 年 07 月 25 日実施)
模範解答

以下の問題のすべてに答えよ。

その際に、どこまでがどの問題の解答なのか、わかるように、
必ず解答用紙に解答番号を明記すること。

具体例を答えさせる問題については、具体例の採点が大きな割合を占めているので、必ず具体例を書くこと。

[1]

個人の労働と欲望と能力との関係について、具体例を挙げて説明せよ。

ヒント：「個人の労働」については、労働のどのような契機が欲望と能力との関係にどのような影響を与えるのか書くこと。具体例は欲望と能力との関係について書くこと。

個人が労働する場合に、常に生産する前にあらかじめ頭の中で生産している。これを通じて、個人は常に理想（頭の中で先取りされた生産物）と現実（現実に生産された生産物）とのギャップを経験する。ここから、少しでも現実を理想に近づけようとするから、能力が上昇する。能力が上昇すると、頭の中で先取りされた生産物自体のレベルも上がってくる。すなわち、欲望も進化する。欲望が進化すると、それに応じてますます能力を高めようとする。こうして、労働する個人は、能力と欲望とのスパイラルに入り込む。例えば、〔……具体例は省略〕

理論：9

具体例：9

[2]

資本主義的な協業における管理労働の発生と委譲とについて、具体例を挙げて説明せよ。

ヒント：具体例は発生と委譲との双方について書くこと。

〔そもそもまだ協業が行なわれていなくても、労働強度が適切か、生産手段の使用が適切か、労働者の監視は必要である。〕協業が行なわれるようになると、権威に基づいて社会的労働編成そのものを調和させる労働、すなわち管理労働（マネジメント）が必要になる。こうして、協業から必然的に管理労働が発生する。
〔そもそも、資本家つまり資本の私的所有者であるということと管理労働者（経営者）として優れた能力を持っているということとの間には必然的な関連はない。その上、生産力の上昇によって剰余価値の量をも率をも追求するために、あるいは単に剰余

価値の総量を追求するためにさえ、] 資本主義的な生産が発展すればするほど、協業の規模も大きくなる。たとえば、最初のうちは資本の私的所有者である資本家が自ら管理労働を行っているとしても、やがては協業の規模は資本家が一人で管理しうる限界を超えるようになる。こうして、資本家は管理労働の全部あるいは一部を賃金労働者に委譲するようになる。[……具体例は省略]

発生：9（例は4）

委譲：9（例は4）

[3]

シュンペータの新結合とは何か、理論的に説明せよ。またシュンペータが挙げた新結合の5つのタイプの中で任意の2つを選び、具体例を挙げて説明せよ。

シュンペーターは生産を物や力の結合と考えた。そして、この結合様式が新しくなるということを新結合と呼んだ。[そして、この新結合が非連続的に起きる場合に、経済成長から区別される経済発展が生じると考えた。]

[新結合に含まれるのは、「(1) 新しい財貨、すなわち消費者の間でまだ知られていない財貨、あるいは新しい品質の財貨の生産、(2) 新しい生産方法、すなわち当該産業部門において實際上未知な生産方法の導入。これはけっして科学的に新しい発券に基づく必要は無く、また商品の商業的取扱いに関する新しい方法をも含んでいる。(3) 新しい販路の開拓、すなわち当該国の当該産業部門が従来参加していなかった市場の開拓。ただしこの市場が既存のものであるかどうかは問わない。(4) 原料あるいは半製品の新しい供給源の獲得。この場合においても、この供給源が既存のものであるか——単に見逃されていたのか、その獲得が不可能とみなされていたのかを問わず——あるいは始めてつくり出されねばならないかは問わない。(5) 新しい組織の実現、すなわち独占的地位（たとえばトラスト化による）の形成あるいは独占の打破」(『経済発展の理論(上)』シュンペーター、塩野谷他訳、岩波書店、岩波文庫版、1977年、第183ページ)である。このうちから二つを選ぶこと。]

シ：新結合：6

タ：5つのタイプ：12 (6*2)

[4]

機械設備が導入されている現代的産業について、複雑労働と熟練労働との関係を、具体例を挙げて説明せよ。

ヒント：機械設備が導入されると、労働がどうなるのか書くこと。現実は無
限に多様なものだから、特徴的・典型的なものを書くこと。

機械設備が導入されると、熟練労働は機械設備に置き換わる。その代わりに、数はずっと少ないが、新しい複雑労働（管理者（経営者）の労働・技術者の労働）が必要になる。

熟練の再発生と再解体。しかしまた、流動的な分業の中で各労働者が自分の作業を繰り返し行っていると、その限りでもた必然的に新たな熟練労働が形成されるようになる。このような熟練はそれ自体としては生産力の上昇要因である。とは言っても、熟練労働自体がコスト要因になると再び解体されて機械設備で置き換えられることになる。

カ：熟練の解体と複雑労働の要請：12

サ：熟練再発生と解体：6